

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

中東和平：ケリー国務長官の6回目の中東訪問（その2）

米国のケリー国務長官の中東和平交渉再開努力は、一つの結果を出した。7月19日、ケリー国務長官は、アンマンで短い声明を出し、イスラエルとパレスチナが、最終地位交渉継続のための基礎を創設することに合意したと述べた。ケリー国務長官は、協議は継続中であるとして、ワシントンでさらに詰めの議論を行うとした。米国での協議には、イスラエルのリブニ司法相、モルホ首相顧問、PLOのエラカート交渉局長が参加する。同長官は、協議内容については明らかにせず、またこの件については自分だけが発言すると述べた。

発表前、ケリー国務長官は、アンマンでPLOのエラカート交渉局長と協議した後、西岸のラマラを訪問してアッバース大統領と会談している。

### 評価

ケリー国務長官は、今回も協議の内容を一切明らかにしていない。イスラエルとパレスチナの協議が順調に進めば、今週中にもワシントンで合意内容が明らかされるかもしれない。ただ最終合意に至るまで協議の中身を一切発表しない方式が取られるのであれば、ワシントンでの合意発表もあいまいな内容になる可能性がある。今回の発表が、ケリー国務長官が西岸を訪問してアッバース大統領と会談した後になされたことは、パレスチナ側が米国側の提案に前向きに対応したためと推定される。アッバース大統領は、交渉再開の条件として、入植地建設の凍結とオスロ合意（1993年）以前から服役中のパレスチナ人囚人の釈放をあげていた。イスラエル側は、20日、オスロ合意以前から拘束されている囚人の一部を釈放すると発表している。

当面の焦点は、正式発表までに、協議内容が外部に漏れずに、ケリー国務長官の表現する「静かな協議」が継続されるかどうかだろう。ケリー国務長官が、これほど秘密を厳守するのは、イスラエル、パレスチナ双方に交渉再開に反対する勢力がいることの証左である。

（中島主席研究員）